「また来てね」

エシュプラトフ　フェルズ
日本語・日本文化研修留学生　ウズベキスタン

「また来てくださいね！」この言葉は、どこでも、誰でも、耳にしたことのある言葉だと思います。ウズベク語で「客は自分のお父さんと同じくらい大事」ということわざがあります。ウズベキスタンの国民はお客様を非常に大切にし、お客様が家を訪ねて来たときは、できるだけ感動させてあげたいと願います。おいしい料理をつくってあげたり、自分の家の一番いい部屋に泊まってもらったりします。つまりウズベキ人はおもてなしの心をとても大切にする国民だと言えます。

子供のころを思い出すと、私たちの家にもよく父の友達や親戚が訪れて来てくれました。父の友達たちは夜遅くまでお酒を飲んだり、騒いだりしていました。母はどんなに遅くなり眠くても、お客様に料理を作ったりしていました。遅い時間でもきれいに後片づけまでしていました。こんな状態が数日も続いていました。しかしいつも母は優しい顔でその大切なお客様に、「また来てくださいね」と言っていたことをよく覚えています。いつも母の疲れている様子を見ていた私は、実はもうお客様は来ないでほしいと思ったこともありましたが、母はどんな時でも、「また来てね」と言って見送っていました。その時の母の気持ちを大人になってよく分かるようになりました。つまり「また来てね」という言葉は「また来てほしい時」にも、「もう来ないでほしい時」にも使い、お客様によって意味がが違うことが分かってきました。

大学に入学してから日本語を学び始め、留学することを夢にしてきました。日本に来るために独学で日本語を勉強し続け、ようやく今年日本に留学できました。今年の 5 月 12 日、世界でも有名な東京の成田空港に来ました。初めての留学でいろいろな問題がありました。しかし空港のスタッフの方が優しく詳しく説明してくれたおかげで、無事にホテルに着くことができました。10 日間の隔離が終了してから和歌山方面行きの電車に乗りました。はじめて見る日本の美しい自然に気を取られていたせいか、電車に慣れていなかったせいか、降りる駅を超えて次の駅に降りてしまいました。その瞬間、慌てた私の目に最初に入った７０歳ぐらいのおばあちゃんに声をかけて駅の確認をしました。そのおばあちゃんは急いでいるにも関わらず、駅員を呼んで状況を説明してくれました。そして、乗るべき電車が来るまで駅員さんと一緒に待って乗せてくれました。和歌山に着くと大学の国際科の方々が迎えに来てくれていました。国際科の方々や先生方も初めてお会いしたにも関わらず、寮に入るために必要な手続きから、生活に必要な物をもってきてくれることまで

もやってくれました。次の日から大学に行き、授業に参加し始めました。そこでとても明るくてみんな仲がいい学生さんたちと出会いました。私の専攻のプロフェッショナルな優しい先生方の授業にも興味をもって参加しています。

日本に来て約 1 か月が経ちました。時間はまるで、小さい川でありながら急速に流れる水のようだと思います。この短い時間で和歌山のきれいな自然や観光地を観光することができました。留学もあと 3 か月です。留学終了後は帰国します。今私は母の優しい顔を思い出しました。責任感を持った空港のスタッフさん、電車のドアが閉まるまで待って笑顔で軽く手を振ってくれたおばあちゃんと駅員さん、自分の国の話に興味をもって聞いてくれた仲間たち、懸け橋になって頑張ってくれている国際科の方々、面白い授業をやってくれている先生方は、みんな「また来てね」と言ってくれるだろうか。帰る日、動き始めた飛行機の窓から見える､みんなにお辞儀をしてくれる空港のおじいちゃんは､「また来てね」と言ってくれるだろうか。「是非また来てほしい」という意味で、「また来てね」を言ってくれるかな。

Come on!

Eshpulatov Feruz Abdunabi Ugli
Japanese Studies Student／Uzbekistan

Come on! Everyone must have heard that word. The Uzbek people are so hospitable that even an Uzbek family that has no bread to eat at home tries to put everything in front of the guest when he arrives. When I was a kid, there were a lot of guests coming to our house, and every time they left, my family would tell the guests to come again, so of course I didn't pay attention to that word then. As I grew older and paid attention to this word, I realized that it is said to everyone, but sometimes willingly and sometimes reluctantly. Here I am now in Japan. Each of our senses is helping us to the best of their ability. It's been over a month since I arrived. In this short time I saw the beautiful nature and travel destinations of Wakayama. I will return to Uzbekistan in 3 months. And now I'm thinking a lot about something. When I leave, they tell me to come again, and the most important thing is what it means to come again.

Yana keling!

Eshpulatov Feruz Abdunabi o'g'li
Yapon tili va madaniyati ilmiy izlanuvchi talaba／O'zbekiston

Yana keling! Bu so'zni hamma eshitgan bo'lsa kerak. O'zbek xalqi shunchalik mehmondo'st xalqki, uyida yeyishga noni bo'lmagan o'zbek oilasi ham, mehmon kelganda uning oldiga borini qo'yishga harakat qiladi. Bolaligimda uiyimizga juda ham ko'p mehmon kelardi va doim ular ketayotganida oilamizdagilar mehmonlarga yana keling deb aytishardi, tabiiyki o'shanda bu so'zga e'tibor qilmasdim. Ulg'ayib bu so'zga e'tibor qilganimda, bu so'- hammaga aytilishini, lekin ba'zida xohlab, ba'zida esa xohlamsdan aytilishini tushundim. Mana men ham hozir Yaponiyadaman. Har bir senseimiz o'z yordamlarini ayamay qo'llaridan kelguncha bizga yordam beryaptilar. Kelganimga bir oydan oshdi. Bu qisqa muddat ichida Wakayamaning go'zal tabiati va sayohat joylarini ko'rdim. Yana 3 oydan keyin o'qish muddati tugab O'zbekistonga qaytaman. Hozir esa bir narsa haqida ko'p o'ylayapman. Men ketayotganimda menga ham yana keling deyisharmikan va eng muhumi shuki, bu yana keling qaysi ma'noda aytilarkan.